


 医師


新型インフルエンザ

第二呼吸器内科部長

松尾 正樹

「インフルエンザ」。毎年やるこの病気に、皆さんも一度はかかったことがあるのではないのでしょうか。特に今年は「新型」の流行が大きな問題となっています。いろいろなニュースがありますが、まずは新型インフルエンザの特徴を知っていただき、適切に対応できるようにしていただければと思います。

◆インフルエンザの種類

インフルエンザウイルスは、大きくA型、B型、C型の3つに分けられます。A型は大きな流行を引き起こすのが特徴で、非常に変異しやすく新型インフルエンザ(H1N1)や毒性の強い鳥インフルエンザ(H5N1)もA型に分類されています。一方、B型・C型は、A型ほど大きな流行はしないとされています。

◆新型インフルエンザとは？

A型インフルエンザはさまざまな動物に感染します。2009年4月に確認された新型インフルエンザは、鳥から豚への感染を経由していくなかでヒトからヒトへと感染する能力を獲得(変異)したとみられています。この新型インフルエンザは、その前年までは一度も流行したことがなくほとんどの人が抵抗する力(免疫)をもたないため世界的に大流行(パンデミック)しているのです。

◆どうやって感染するの？

感染経路は通常のインフルエンザと同様で、咳やくしゃみとともに放出されたウイルスを吸い込むことによっておこる飛沫感染と、ウイルスが付着した物(例えばドアノブや手すりなど)に触れた後に目、鼻、口などに触れることで、粘膜・結膜などを通して感染する接触感染が考えられています。

◆症状は？

症状は季節性インフルエンザとほぼ同じで、突如の発熱や咳、のどの痛み、だるさ、筋肉痛、鼻水、鼻づまりや頭痛などです。吐き気や下痢といった胃腸の症状を訴える方も一部におられ、これは季節性インフルエンザと少し違う点だと言われています。注意点として、小児で意識障害、意味不明の言動、けいれんなどがあるときはインフル

エンザ脳症の可能性があり、成人においては息切れ、呼吸困難があるときは肺炎合併の恐れがあるので速やかに医療機関を受診してください。

◆診断は？

医療機関には15分程度で判定できる迅速診断キットがありますが、必ずしも陽性にならなかったり、発症早期は陰性で半日～1日後に陽性となることもあります。したがって、検査結果だけでなく流行の程度や症状などを総合して診断されます。

◆治療は？

インフルエンザの治療は、早期からの自宅安静や十分な水分・栄養補給が基本です。それに加えて、医師が必要と判断した場合に抗インフルエンザ薬の投与も行われます。新型インフルエンザに対してはタミフル(内服)カリレンザ(吸入)のどちらかが用いられます。妊婦や子供さんに対する処方、副作用のリスクを見極めながら医師が投与の判断をすることになっています。一般的に治療薬は有効で、多くの方は比較的軽症で回復されています。ただし、持病をお持ちの方や妊婦、乳幼児、65歳以上の高齢者では重症化する恐れがあるといわれていますので、疑わしい症状があれば早めに受診されるほうが良いでしょう。

◆予防方法は？

日ごろから栄養と休養を十分にとって体力・抵抗力を高めましょう。また、外出時はマスクを着用したり人混みを避けるようにし、外出後のうがい・手洗い(石鹸を使って15秒以上!)をしっかりしましょう。ウイルスは低温・乾燥を好みますから、室内は適度な温度と湿度を保つことも大切です。新型インフルエンザの患者さんを自宅看護する場合は、なるべく個室で静養していただき、患者さん・看護者ともにマスク着用、うがい、手洗いを徹底してください。定期的な換気も大切です。ワクチン接種は100%の効果ではありませんが、死亡や重症化の防止に効果があるとされ優先接種対象者が定められています。詳しくはかかりつけ医もしくは最寄りの医療機関にお尋ねください。

★「フィリア・レター」は、「中部ろうさい」病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。